

会 議 録

会議名 (付属機関等名)		第1回川西市行財政改革審議会		
事務局(担当課)		総合政策部行革推進課		
開催日時		令和4年9月13日(火) 18時00分から19時30分		
開催場所		Web会議システム(傍聴場所:市役所4階 庁議室)		
出席者	委員	上村 敏之 委員、櫻野 孝人 委員、足立 泰美 委員、福田 直樹 委員、東 朋子 委員、田辺 彰子 委員		
	その他			
	事務局	越田市長、石田総合政策部長、飯田総合政策部副部長、富本行革推進課長、増田主査、多田主任		
傍聴の可否		可	傍聴者数	2人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1.開会 2.市長あいさつ 3.議事 (1)会長及び副会長の選任について (2)令和3年度決算状況及び行財政改革の取組みの報告について (3)次期行財政改革大綱の方向性について 4.閉会		
会議結果		別紙審議経過のとおり		

審議経過

事務局	<p>お時間がまいりましたので、「令和4年度第1回川西市行財政改革審議会」を開会させていただきます。</p> <p>皆様におかれましては、本日はご多忙にもかかわらず、お集まりいただき、誠にありがとうございます。</p> <p>私は、本日の司会を務めます、川西市総合政策部行革推進課の尋田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>本日の川西市の出席は、市長の越田、総合政策部長 石田、総合政策部副部长 飯田、行革推進課長 富本、行革推進課主査 増田となります。</p> <p>また、本日の審議会の傍聴者数は、2人です。</p> <p>当審議会は「川西市参画と協働のまちづくり推進条例」第10条第3項、「川西市行財政改革審議会 会議公開制度運用要綱」、「川西市行財政改革審議会の会議公開に係る傍聴要領」に基づき、公開し、傍聴可能となります。</p> <p>会議録については、各委員のお名前を伏せた形で発言要旨を事務局でまとめ、その内容について、会長にご確認、ご承認いただき、この会議録も公開対象となります。</p> <p>また今年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、「川西市行財政改革審議会のWeb会議運用に係る要領」に基づき、Web会議システムを活用して開催します。</p> <p>至らない点もあるかと思いますが、ご協力をよろしく願います。</p> <p>開催に先立って、Web会議システムの方法による参加及び通信の確認を行います。</p> <p>本日は、全委員がWeb会議システムによる出席となります。会議開始前に事務局が出席委員に対して、「映像及び音声により委員本人であること」、「会長及び委員相互間での映像及び音声の即時の相送受信が適正に行われていること」の2点について、確認がとれております。</p> <p>従いまして、「川西市行財政改革審議会規則 第6条第2項」の規定により、審議会が開催できることを、事務局からご報告します。</p> <p>続いて委員の皆様の委嘱につきまして、委員任期といたしましては、令和4年9月13日から令和5年3月31日まで委嘱をさせていただいており、今回が初回となっております。</p> <p>委嘱状の交付につきまして、直接お渡しするべきところですが、WEB会議での開催となっているため、事前に郵送させていただいておりますので、よろしくお願い申し上げます。</p>
-----	--

市長	<p>では初めに、越田市長より、皆様へご挨拶を申し上げます。</p> <p>皆さんこんにちは。</p> <p>大変ご無沙汰しておりますが、この令和4年度も、またこの6名の皆さんに、行財政改革審議会の委員としてご就任をいただきましたことを厚く御礼を申し上げます。本当にありがとうございます。</p> <p>また私が市長就任後、この4年間、審議会の皆様におかれましては、途中コロナという非常にやりにくい状況もありましたけども、事業再検証も含めまして、多くのご意見やご提案を頂戴いたしました。</p> <p>どうしても事業再検証ばかりがクローズアップをされる行財政改革になっておりますけれども、地道に補助金の見直しであるとか、使用料手数料の見直しであるとか、そのほかにも様々な取り組みを進めて参りました。</p> <p>財政状況に関しましては、データの方はすでに皆さんにお渡しをさせていただいておりますが、いわゆる単年度の実質収支につきましては3年連続で黒字で、我々が独自に出しているデータとして、実質的な収支という部分につきましても、2年連続で黒字という状況になりました。</p> <p>令和4年度に関しましても、少しこのコロナの状況とですね物価高騰の状況が、少し見えない部分がありまして、コストが少し積み上がっていくのではないかなということを予想しておりますけども、予算策定時においては、すでに財源不足を目的とした基金の繰入れを取り行わないという方針の中で、市政運営予算を成立させていきました。</p> <p>そういった意味でも、令和4年度も予算の中での執行をきっちりしていくことによって、財政収支をしっかりと均衡に持っていく行政運営をして参りたいなというふうに思っています。</p> <p>一方で、我々としては、これから先のことをどうやってしっかりと打ち出していくのかということが、今回の行財政改革審議会の皆様に、お諮りをしなければいけない一つの大きな論点だというふうに思っています。</p> <p>一つは事業再検証で300事業を全て検証いただきましたけども、そのあとのフォローアップ、そこで評価をいただいた、改善、指摘をされたものの、その全てがすでに形になったということではなく、まだ具体的な形にまで至っていないようなものもございます。</p> <p>こういったもののフォローアップを、皆様方には適切にしっかりとさせていただいて、我々もご指摘をいただいた皆様方に対しても、市としての取り組みをお伝えし、単に削減をするのではなくて、新たな価値を生み出していく、いわゆる質の改革をしていく、こういったことについてのご議論をいただきたいというふうに思っております。</p> <p>またその次に、今まさにi n gで進めようとしておりますが、使用料、手数料につきましては、4年に1回しっかりと見直しをしていくというこの状況になりますので、令和5年度4月から、1回目の見直しという料金改定が、動く</p>
----	--

わけですけれども、その後も、我々が定期的な仕組みとして、使用料手数料等、受益と負担の関係において適切に行っているのかどうか、さらにその中で見えなかった部分、団体への使用料の減免等、今後、そういった状況についてもどういうルールであるべきなのか、しっかりとその辺のご議論をいただかなければいけないというふうに思っています。

一方で、これも着実に進めて参りましたが、各種団体への運営補助の問題です。

基本的には団体の運営そのものを補助するということは考えず、あくまで事業に基づいた補助に切り換えていくのだと、公平性と透明性をしっかりと持った公益的な事業に補助をしていくんだということが、今までの川西市の補助金改革、これも長い年月をかけてきましたが、特に越田市政が始まってからしっかりとそこをより強調して打ち出しております。

とは言いながら、各種団体の皆さんにとっては、それぞれの補助金を持つ役割や意味づけ、重さというのはそれぞれ違うわけでございますから、今それぞれの団体の皆さんとの意見交換をしていきながら、次の形というのを模索していきたいと、一定年限を切っていく中で、公募型の補助金、事業奨励型に統合していくというのは皆さんからもご提案をいただいているところでございますので、それを本当に具体的にどういうルールで新たな補助金に変えていくのかといったところ、こういった点を踏まえても、皆さんとディスカッションいただき様々なご意見をいただきたいというふうに思っております。

これから第6次総合計画や次期行革大綱の策定に向けて準備をしていくにあたっては、単なる歳出削減というための、行政改革ではなくて、これからしっかりと新たな価値を生み出していく、そのために必要な、お金をどうやって作っていくのか、こういったことを、いわゆる歳出削減型と、そもそもそこを目指していたわけではありませんが、どうしても行政改革にはそういうふうに見える側面がございますので、より前向きな発想が生まれるような、より前向きに市民の皆さんにメッセージとして伝わるような、そのような大綱というものを、作っていければなというふうに現時点では考えております。

まだまだこれ白紙の状況の中から、次のご提案をいただくという状況にもなっておりますので、皆様方のそれぞれの様々な専門的な知見、経験をお借りしますとともに、これからも引き続き、川西市に本当に絶大なる愛を持ってご担当いただいておりますので、ぜひ変わらぬ愛を持って、川西市の財政運営、行政運営に対してのご意見を頂戴できればと思っております。どうかよろしくお願いいたします。

事務局

では次に、委員の皆様のご紹介をさせていただきます。

委員の皆様は、資料1委員名簿の通りでございます。昨年までと同様の委員構成となっております。引き続きよろしくお願いいたします。

それでは、議事の一つ目、本審議会の会長及び副会長の選任について説明い

	<p>たします。</p> <p>川西市行財政改革審議会規則の第5条第2項では、会長及び副会長は委員の互選によって定めると規定しておりますが、ご推薦はありますでしょうか。</p> <p>特にご推薦はないようですので、事務局より、前期に引き続き会長に上村委員、副会長に榎野委員を推薦させていただきますが、ご承認いただけますでしょうか。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、委員の皆様にご承認いただきましたので、会長を上村委員に、副会長を榎野委員にお引受けいただくことといたします。</p> <p>それでは、会長、副会長より一言ずつ御挨拶を頂戴したいと存じます。恐れ入りますが、上村会長からご挨拶をよろしくお願いいたします。</p>
<p>会長</p>	<p>会長に就任いたしました上村です。</p> <p>川西市の行財政改革審議会においては、全事業の再検証という、他の自治体ではなかなか見られない取り組みを行いました。</p> <p>この取り組みは非常に手間のかかるものでしたが、事業担当課と各委員が建設的な議論を行うことで多くの事業を改善することが出来たと考えています。</p> <p>さらには、財政健全化条例、使用料手数料の在り方、補助金改革など、非常に幅広い行財政に関わるテーマを議論してきました。委員の皆様には活発なご議論をいただいたことを改めて感謝します。</p> <p>この間、新型コロナウイルス感染症の拡大によって、審議会や事業再検証がオンラインになりましたけれども、それまで対面の議論を重ねていたことがこの審議会の委員並びに行政の方々との信頼関係を構築できていて、審議がうまく運んだと思っています。</p> <p>また、この度再スタートということですが、とりわけ、事業再検証のフォローアップはしっかりやらないといけません。</p> <p>そのほかにも、重要な課題があります。</p> <p>単なる歳出削減じゃなくてこの川西市の行政によっていかにバリューを生み出すのか、よりよい行政の在り方、改善の在り方を模索するといった観点から審議をお願いしたいと思います。</p> <p>残念ながらまだ対面の審議は出来ないということですが、これまでと同様に、忌憚なくご意見いただければと思います。</p> <p>どうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、榎野副会長、ご挨拶よろしくようお願いいたします。</p>
<p>委員</p>	<p>榎野でございます。</p> <p>前年度に引き続き、上村会長を支えながら、時には忬度なく、遠慮なく活発</p>

事務局	<p>な議論を皆さんと一緒に進めていきたいと思っております。 どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>ありがとうございました。 それでは、ここからの進行は、会長にお願いしたいと思います。 上村会長、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
会長	<p>それでは次第に従いまして、議事を進めていきます。 皆さんのご協力を得てスムーズに進めていただきたいと思いますのでよろしく お願いします。</p> <p>なお本日の会は、会議時間を概ね 1 時間 30 分とし、19 時 30 分を閉会の時刻 として進めたいと思います。ご理解、ご協力をお願いします。</p> <p>それでは議事二つ目の令和 3 年度決算状況及び行財政改革の取り組みの報告 について事務局よりご説明をお願いします。</p>
事務局	<p>改めまして、皆さん、いつもお世話になって、ありがとうございます。 行革推進課長の富本でございます。</p> <p>本年度も引き続きお世話になります。よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは私のほうから、資料 2 令和 3 年度決算成果報告書、財政分析編と、 資料 3 令和 4 年度行財政改革の取り組みによる予算反映状況について、(令和 4 当初予算の概要抜粋)という資料を使いまして、決算状況と行財政改革の取り 組みの進捗状況につきまして、ご説明をさせていただきたいと思います。</p> <p>それでは、まず資料 2 令和 3 年度決算成果報告財政分析編の 1 ページをご覧 ください。</p> <p>ここでは令和 3 年度決算全体の概要をお示ししております。</p> <p>まず(1)一般会計決算ですが、令和 2 年度に比べまして決算規模は減少し ておりますが、依然として新型コロナウイルス感染拡大前と比べますと決算規 模としては、大きい状況となっております。</p> <p>次に(2)歳入では、個人住民税の減等により市税が約 3.5 億円減少をして おります。</p> <p>令和 3 年度の個人住民税につきましては、令和 2 年の所得に対して、課税さ れるものとなっておりますので新型コロナウイルス感染症の影響が、大きかつ た令和 2 年の影響が令和 3 年度の市税収入に反映されて、そのために減少して いると、いったところでございます。</p> <p>一方で地方交付税につきましては、臨時経済対策費等の国の臨時的な財政措 置によって約 17.1 億円増となっております。</p> <p>次に、(3)歳出でございますが、令和 2 年度に支給されました、特別定額給 付金、これはいわゆる 1 人 10 万円の給付金の分でございますが、これが令和 2 年度に完了をしましたので令和 3 年度はそれと比べまして、民生費の歳出が</p>

108.8 億円減少となっております。

一方で令和3年度につきましては新型コロナウイルスのワクチン接種事業、これが実施されましたので、これに係る経費などで衛生費が11.2億円増となっております。

また、(5)基金では、収支不足を補填するための基金繰入れを行っておらず、基金への積立てを行ったことにより、基金残高は10.7億円増加しております。

令和3年度の決算の全体像としましては、これまでの行財政改革の取り組み効果によって改善している部分、これがベースにありつつも、それよりも大きな影響として、国の経済対策に伴う一般財源の一時的な増加、これによって収支状況が改善をし、基金残高が回復をしているといった状況であるというふう

に考えております。

次に個々の決算の状況について簡単にご説明をさせていただきます。

資料の2ページをご覧ください。

こちらのほうは一般会計決算の推移でございます。

資料の中ほどより少し下に棒グラフがございますが、ここをご覧くださいますと、新型コロナウイルス感染対策によって令和2年度と令和3年度の決算規模が例年と比べて大きくなっているといった状況がおわかりいただけるのではないかなと思います。

次に少し資料の方、とびますけれども6ページをご覧ください。

一般財源と特定財源の推移でございます。

中ほどの線グラフのほうを見ますと、令和2年度は、特定財源が大きく増加をしております。

これは特別定額給付金の特定財源によるものとなっております。

引き続き令和3年度につきましても、令和2年度からは減少している状況でございますが、例年と比べますと依然として特定財源が多い状況となっております。

一方で、一般財源につきましては、横ばいのような状況となっております。

市税収入の減少を、臨時的な財政措置を含めた地方交付税等の増加でカバーしているといったような状況でございます。

次に7ページをご覧ください。

市税収入の状況となっております。

資料の下の線グラフを見ていただきますと、新型コロナウイルス感染症の影響も含めましてですね、個人市民税の減少傾向をというのが続いているという状況となっております。

次に8ページをご覧ください。

地方交付税の状況でございます。棒グラフで示している図でおわかりいただけるように、令和3年度は前年度と比べて16.5億円の増となっております。

増加の要因につきましては、ページ上部のポイントと入ったところの番と番のところに記載をしておりますが、主には、国の補正による臨時経済対策

費等の臨時的措置によるものが主な要因となっております。

次に少しページがまた飛びますけれども、16ページをご覧ください。

基金残高の状況でございます。

令和3年度は、前年から10.7億円、基金残高が増加しております。

また、財政基金と減債基金の残高合計についても4.9億円の増加で、計50.7億円となっております。

この基金残高につきましては、令和元年度に行財政改革審議会の中で、皆様にご議論いただきました、財政健全化条例の中において定められている基金確保比率5%、これをクリアしている状況でございます。

なお令和3年度末の当該比率につきましては15.2%となっております。

令和3年度の川西市の決算状況については概ねこのような状況となっております。

引き続き行財政改革の取り組みについてご説明をいたします。

今、ご覧いただいている資料の22ページをご覧ください。

令和3年度に行財政改革の取り組み実績をお示ししております。

上段の方では現在の行財政改革後期実行計画、これは平成30年度から、行財政改革の取り組みを行っているものこととございますが、これに挙げられている項目の令和3年度における、影響額、これをお示ししております。

内容としましては、上から、参画と協働のまちづくりの推進等ですね、民間の活用、それから業務改善、歳入の確保や、組織再編など様々な取り組み項目を記載しておりますが、全体としましては、一番下に合計欄に記載をしておりますように、1億2,186万5,000円分の市の負担というものが減少したといった影響となっております。

また、下段のほうでは昨年度、行財政改革審議会の皆様にご協力をいただき完了しました事業再検証の影響額でございます。

令和3年度の決算に影響が反映するものとしましては、主に令和元年度に、事業再検証を実施した事業が影響しているという内容となっておりますが、表の右下の合計のところがございますように、全体としては5,974万9,000円、市の負担が減少しているといった影響となっております。

この影響額の合計につきましては、昨年度、令和3年度に皆様にご協力いただきながら実施した事業再検証、これはほとんどまだこの中には反映をされておきませんので、これから令和4年度以降も、継続してこの影響額、市の負担の減少というものが積み上がっていくのではないかなというふうに考えております。

次に昨年度に実施していただきました事業再検証についてでございますが、その後の経過につきましてご報告をさせていただきます。

資料としましては一応参考として配付のほうをさせていただいております、令和3年度事業の見直し、(事業再検証)(外部有識者とのディスカッションによる検証分)といったものと、同様のものでもう一つ、自己検証分という

のが、ございますがこの内容でございます。

一つ一つ個々の内容につきましては量も非常に多くありますので、割愛をさせていただきます。

全体の流れといたしまして、事業再検証につきましては、昨年の10月6日に、行財政改革審議会として、95事業の検証結果の答申をいただきました。

その内容を元に、10月13日から3日間にわたりまして、市議会に説明をするとともに市議会からもご意見をいただいております。

また、10月18日から1ヶ月間、パブリックコメントのほうも実施をさせていただき、その結果132人の方から、194件のご意見をいただいたという状況でございます。

その後、市民や市議会からいただきました意見を市の方針に反映をいたしまして、今回、お手元に参考資料として配布させていただいております再検証の結果といった形として最終的な市の見直し内容として決定をさせていただいたといったところでございます。

今後はこの内容に基づきまして、検証結果に記載の内容を実行していくというふうを考えております。

続きまして昨年度の行財政改革の取り組みでもう1点ご報告がございまして先ほども出ておりますが使用料手数料の見直しについてでございます。

使用料手数料の見直しにつきましては、一昨年、令和2年度に審議会の皆様にご議論をいただきまして、見直しの基準を策定させていただきました。

その後、昨年の7月に、使用料の算出方法を含めた、見直し基準の内容と、各施設の利用料金の見直しと合わせまして市議会にご説明をさせていただきました。

その後、11月には広報紙に特集記事を掲載するとともに、一般の市民の方、それから実際に施設を利用されている方に対して、アンケート調査を実施し、その後、3月議会におきまして料金見直しの条例案の議決をいただいたといったところでございます。

なお改定料金の適用につきましては、来年の4月からといった形になっております。

昨年度の行財政改革の取り組みにつきましては、以上のような状況でございます。

引き続き今年度の行財政改革の取り組みにつきまして簡単にご説明をさせていただきます。

資料3 令和4年度行財政改革の取り組みによる予算反映状況についてをご覧ください。

これは令和4年度予算に関する説明資料として市議会のほうに配布をし、ホームページでも公表をしている資料でございます。

まず1ページの上段にございます事業再検証の予算反映状況でございますが、これは予算額ベースでの影響額となっており、予算額ベースに置きますと

令和4年度までの間で合計が、1億3,692万8,000円の市の負担が減少というふうに見込んでおります。

少し省略させていただきまして、2ページ目の一番下の表をご覧ください。

令和4年度に行う行財政改革による取り組みにつきましても、記載をしております。

表の中に記載をしておりますように令和4年度につきましては、これまでの行財政改革審議会のほうからの答申等を受けまして、大きく5点の取り組みを進めております。

1点目は補助金の見直しでございます。これは先ほど市長からもありましたように、団体運営補助の見直しといった内容となっております。事業再検証のほうでもご議論をいただいた内容となっております。

現在は個々の補助金制度が、しっかり事業奨励型として効果検証ができるような仕組みになるように、担当課と個別の補助金制度の見直し、これにつきまして協議を進めているといったところでございます。

2点目につきましては団体事務局事務の見直しでございまして、これにつきましても、各任意団体の自主自立した運営となるように、個別に団体と協議調整をして進めていっております。

それから3点目の市税の減免、4点目の施設利用における使用料の減免、それから5点目の土地建物の無償貸付け等につきましては、今年度中にガイドラインのほうを作成して、公表するといった予定としており現在各関係部局と協議を進めていっているところと、いった内容となっております。

以上、長くなりましたが説明は以上でございます。

よろしく願いいたします。

会長

はい、ありがとうございます。

ただいまの説明についてご意見を伺いたいと思います。

他の委員から意見がないようなので、私のほうから質問いいですか。

決算報告で、新型コロナウイルス感染症に伴って収入と支出が両方とも増えているわけですがけれども、これを、難しいですが分離することって出来ないうすかね。その新型コロナウイルス感染症がなければどういう財政状態かということってというのは、やっぱり示すことは難しいと考えていいですか。

事務局

新型コロナウイルス感染症に伴う歳出と歳入というところですがけれども、単純に例えばですがけれども、国からのコロナに係る交付金によって行った事業、これに伴う歳入と歳出といった意味合いでは、分けることができるかとは思いますが、一般財源部分で言いますと、市税の減少がどのぐらいがその影響だったのか、また例えば医療費の抑制、受診控えといったようなもの、それから各種イベント等が中止になったことによる影響とか、そういったところまでを含めると、なかなかコロナがあったとしたらコロナがなかったとしたら

	<p>どうなったのかという分析は、少し難しいかなという気はしております。以上でございます。</p>
会長	<p>はい、わかりました。そうだろうなと思ったのですが、コロナがない状態で財政状態がどうだったのかっていうのを本当はチェックしといたほうがいいかなと思ったのですが、ただいろんなものが入り込んで、難しいなと思った次第です。</p> <p>もしも他に何かあったらいかがでしょうか。</p>
委員	<p>1点だけ、端的に答えられる範囲で結構です。</p> <p>300事業ほど、見直しを行い、チェックを行いました。先ほどの説明で、全てに関して、進捗通り、まだ進んでいるわけではないっていうふうにおっしゃったと思うのですが、なかなか進んでいない事業の大体の割合っていうのはどれくらいでしょうか。</p>
会長	<p>事務局お願いします。</p>
事務局	<p>現在進行形の感覚的な部分になってしまうところはあるのですが、7割から8割ぐらいはこれから、令和4年度に考えながら令和5年度に向けて、見直しを進めていくような現在進行形のものになっているかなというふうな状況と考えています。以上です。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p>
会長	<p>委員お願いします。</p>
委員	<p>こういう状況の中で、しっかり財政規律を保って、よくこういうふうにとまとめられたなという部分と、一方で、100年に1度のパンデミックの中で、前年比較ってほとんど意味をなさないのではないかなというふうに私は思っていて、逆に言うと、こういう時期に、ウイズコロナ、アフターコロナに備えてこういう準備とこういう仕込みをしたので、終わった後にV字回復出来ますよという、その手だてと使ったお金みたいなものをしっかり記録しておくことが、次の、何か起こったときの備えになるのではないかなと思うので、なかなか何を得出しするのは難しいことかと思えますけども、例外扱いの、この今年とか前年みたいに、私はとらえていたほうがいいのではないかなと思います。</p> <p>以上です。感想ですが。</p>
会長	<p>はい、ありがとうございます。感想ということで事務局からのコメント、リ</p>

	<p>プライはないということによろしいですかね。</p>
委員	<p>はい。</p>
会長	<p>はい、他いかがでしょうか。 よろしいでしょうか。</p>
	<p>それでは続きまして、議事三つ目、次期行財政改革大綱の方向性について、事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>それでは議事の三つ目、次期行財政改革大綱の方向性につきましてご説明をさせていただきます。</p> <p>資料の4、「次期行財政改革大綱の方向性について」をご覧ください。</p> <p>この議題につきましては、現在、川西市が進めている行財政改革の取り組みの方向性や、方針を定めております、川西市行財政改革大綱、この期間が、令和5年度までとなっておりまして、令和6年度以降の、川西市の行財政改革の取り組みについて、どのようなことを目指して行財政改革を進めていくのか、今後の方向性こういったところを検討していく必要がございます。</p> <p>本格的な議論につきましては、令和5年度に行うこととなりますので、現時点では、現在の川西市の行財政改革を取り巻く状況を共有させていただくとともに、委員の皆様には川西市における、これからの行財政改革、行政運営にあたっての様々なご意見やアイデアを、ご議論いただきたいといったふうに考えております。</p> <p>それでは資料に沿ってご説明をいたします。</p> <p>まず、川西市における行財政改革に係る取り組み状況につきましてですが、大きく2点記載をしております。</p> <p>まず、 の行財政改革大綱、行財政改革後期実行計画によるものと、 としまして財政健全化の集中期間における取り組みでございます。</p> <p>まず の行財政改革大綱等における取り組みにつきましては、市立川西病院の経営改革や、ごみ収集体制の見直しなどとなりまして、こちらにつきましても着実に取り組みのほう実行をしております。</p> <p>次に の財政健全化の集中期間における取り組みとしまして、財政健全化条例の制定や、全事業再検証の実施、使用料手数料の見直し等を完了しております。</p> <p>今後は先ほども申し上げましたが、補助金、団体事務局事務、各種減免、土地無償貸付け等について見直しを行っているといったところでございます。</p> <p>現在、川西市が進めている、行財政改革の取り組みといったものは以上のような内容となっております。</p> <p>次に、川西市の財政状況についてでございます。</p>

先ほど決算状況のほうでもご説明をしました通り、行財政改革の取り組みこれをしっかり行ってきたことに加えまして、新型コロナウイルス対策における、国からの財政支援、これもあって一時的に収支不足が改善しているといった状況ではございますが、この国からの財政支援というものは国の方針としましては、早期に地方財政への歳出構造を平時に戻すということが示されており継続した財政支援が期待できるといった状況ではございません。

加えまして、今後も社会保障費の増加が見込まれる状況となっているとともに、令和6年度からはですね、新たな総合計画がスタートすることとなっております。

それを実現するための経費というのもしっかり確保していくといった必要がございます。

さらには令和3年度の時点ですが、策定した中期財政運営プラン、これでの見通しの中では、令和5年度以降は、今年度からスタートしております中学校給食に係る運営経費、それから市立川西病院の経営改革に伴いまして様々な必要となってくる一時的な経費もございます。

これらの経費が必要となることから、収支不足が続く見通しというふうになっております。

資料のほうに収支見通しを記載させていただいておりますが、令和5年度は322と記載しておりますが3億2,200万円の収支不足が見込まれているといった状況でございます。

令和8年度まで、収支不足が見込まれているというような状況となっており、そのようなことから今後も引き続き行財政改革の取り組みが必要な状況であるというふうに考えております。

次に、次期行財政改革大綱の策定に向けてということで大きく2点上げておりますが、まず1点目は経済財政運営と改革の基本方針2022、ということでいわゆる骨太の方針でございますが、ここで示されている、行政の効率化等に関わるキーワードを列挙しております。

これらに記載する内容につきましては、川西市として必ず取り組むといったようなことではなく、本日の議論にあたって、国の方針としてこのような考え方が挙げられているということをご紹介させていただいているものでございます。

内容としましては、デジタル原則に照らした規制の一括見直しプラン、これへの対応など、デジタル化に関することや、上から五つ目の中点にあるように、官の領域とされてきた社会課題の解決に人の力を発揮してもらおうといったような官民連携の視点での取り組み、それからまたその二つ下の中点では、良質なテレワークモバイルワークやその下の勤務形態の柔軟化など、働き方改革に関すること、それから一番下の中点ではBPRの取り組みということで、業務改善に向けた例えば業務量調査、分析、それからAIとかRPAの導入などといったような取り組みが挙げられているといった状況でございます。

次に2点目としまして川西市における令和3年度までの行財政改革審議会からの指摘事項としておりますが、一つは外郭団体等の役割についてご指摘をいただいております。

また先ほどもありましたが、公民館の機能転換等ですね、事業再検証を通じてご指摘いただいている個別事業の中におきましても、少し大きな議論が必要になってくるといったようなものもございますので、今後しっかりそういったものも進めていく必要があるというふうに考えております。

他にも、事業再検証の取り組みの基本的な考え方の一つとしまして、こういった再検証を職場風土として定着をさせ、継続的に実施をしていく組織づくりに取り組むということも目指しており、そのあたりをどのように仕組み化するかといったことも検討する必要があるのかなというふうに考えております。

また昨年度委員の皆様も川西市の事業再検証に関わっていただく中で、感じられた課題点や、川西市役所が、より成長し続ける組織になるために、必要だというふうに感じられたことなど、ざっくばらんにこの後ご意見をいただけたらというふうに考えておりますのでよろしく願いいたします。

それから最後に、スケジュールのところでございますが、現時点でのイメージではございますが簡単にご説明をいたします。

まず、今年度につきましてはですね、年が明けた来年の2月頃をめぐり、第2回目の審議会の開催をお願いしたいと考えております。

ここでは令和5年度の行財政改革の取り組みの予定をご紹介するとともに、本日ご議論いただいた内容をもとにしまして、もう少し具体的な内容に落とし込んだような資料が準備出来たらなというふうに考えております。

その後、令和5年度に入りましたら、5月頃から8月いっぱいぐらいをめぐり、4回程度の審議会を開催いただきまして、本格的なご議論をいただき、その後、答申をいただきたいというふうに考えてございます。

その後につきましては答申に基づきまして計画案、これを作成しましてパブリックコメント等、必要な手続きを経て決定をして参りたいというふうに考えております。

雑駁になりましたが説明は以上となります。

よろしく願いいたします。

会長

ありがとうございます。

ただいまの説明についてご意見を伺いたいと思います。

委員

すいません、質問でもよろしいでしょうか。

会長

質問でもいいです。

委員

大変丁寧な説明ありがとうございます。

	<p>資料の4の中で、中段、川西市の財政状況の中で令和5年から令和8年にかけて、トータルの金額を拝見しておりますと、実際に、8億近い金額になりまして、今現状、昨年度歳出620億円ですので、大体1割の不足額が生じるであろう。その状況の中で、あえてご質問したいのですが、上段部分を拝見しまして、行財政改革、こちらのほうで「効果額が目標に届いていない部分を一定効果がある、着実にやっている」と書いてあります。</p> <p>この中の目標に届いていなかった要因ですね、川西市の病院改革、ごみ収集体制の見直し、組織体制見直し、こういったものが着実に行われているのはよくわかりました。</p> <p>逆に、この目標値に届いていない最大の要因は、どういう形で分析なさっているのかをお聞かせください。</p> <p>これが結果として、今後の一つの目標になると思いますので、教えてください。</p>
<p>会長</p>	<p>はい、ありがとうございます。 いかがでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>現在の行財政改革の取り組みの中で、効果額が届いてないものの要因というところでございますけれども、私どものほうで一番大きく影響しているのが、市立川西病院の改革の効果額の部分でございます。これは当初、この計画をつくるときに見込んでいた効果額というものと比べまして今現状の出ている効果額というのが届いていないといった内容となっております。</p> <p>その要因につきまして、当初、例えばですけれども病院の改革に伴いまして、今の古いほうの病院の例えば解体というのがございます。</p> <p>こういった解体の経費とかが、計画当初は、例えば、地方債を発行して、負担を分散して解体経費を見積もっていたというところが国とのやりとりなり調整の中で、地方債を発行せずに解体をすることで例えば交付税の手当が出てくるといったような財源対策のような事情もあって、比較的計画期間のあたりに、臨時的な経費として、少し大きく、当初見込んでいたときよりも経費を前倒しで支払っていくといたしますか、そういったような事情があって、当初の見込みよりも少し経費が今、負担が大きい時期を迎えている。今後それが、その分につきましては今後の負担が、その分楽になっていくというふうなことにはなるのですけれども、少し厳しい時期を迎えているのかなというふうに分析しております。以上です。</p>
<p>委員</p>	<p>わかりました。</p> <p>でしたらですね、先ほど説明の中で約8億が不足してしまう要因として、給食センターと病院を理由におあげになっていると思います。</p> <p>ただ、今の説明でいきますと、一時的な負担が今生じているだけであって、</p>

	<p>最終的には計画通りにいくであろう。そういう形のご説明として受け止めたのですが、それが難しいかどうか、もし、それを見込んだとしましても、この令和5年から令和8年のトータルの金額、8億はやはりやむを得ない金額なのか、この2点教えてください。</p>
事務局	<p>はい、この病院の改革の影響で少し一時的といいますか、そうことで負担が増えている部分、それも含めて8億円というところを累計の収支不足というところですけども、状況としましてその後、これはもう病院の改革の効果というのは必ず出てくるといった状況はございますが、少しそれが遠くなっているというところがございますので、そこに中学校給食等を、それから、一定新たな要素として学校の老朽化対策でありますとか、今回、コロナの関係でデジタル化を進めたことによって、例えば、各学校にタブレットを配布したことによって今度は更新時期でありますとかランニングコストというのがこれまでなかった経費も入ってきますので、そのあたりこれから、今年度はこの収支プランの見直しを行っていくわけですけども、その中でしっかりまた見込みを見直して、国の動きもまた変わってきておりますので、そのあたりも見通しながら、少しこの8億円が見込み通りなのか、どのくらい苦しいのかというのをもう少しまたブラッシュアップをして、試算をしていきたいなというふうに考えております。以上です。</p>
委員	<p>その原因が、学校関係となりますと、将来の教育投資という見方もありますので、8億っていうのを吟味して、ご検討いただきたいと思います。 大変わかりやすい説明ありがとうございました。</p>
会長	<p>はい、ありがとうございます。 他にありますでしょうか。 委員お願いします。</p>
委員	<p>次期行財政改革大綱の策定のところに対しての要望をお話したいと思えます。 まず一つ目のところにデジタルという言葉がいっぱい出てくると思うのですが、これ、間違ったところだと、デジタル化とか、IT化と、いわゆるデジタルトランスフォーメーションを混同して使っている自治体が結構あると思っていて、単純に行政の業務をデジタルで効率化するっていうのは、昔のデジタル化であったりIT化で、今言われているデジタルトランスフォーメーションというDXは変革しないといけないっていう、その考えをぜひ分けてほしい。 特に、自治体の中のこれをDXで効率化しますよって内向きの議論だけじゃなくて、DXすることによって市民の暮らしが便利になるとか豊かになるとか、</p>

企業がDXすることによって企業収益が上がるってところの攻めのDXと、自分たちの業務をよくする、守りのDXを分けて、ここは議論していったほうがいいのではないかなというふうに思っています。

特に、攻めの市民とか企業向けのDXのお手伝いをしてあげないと、本当にもうみんながへろへろになって、海外勢のAmazonだったり、GAF Aに全部やられていくって時代が早晚やってくるので、ここも自治体がお手伝いするしかないと思いますから、ここはぜひ分けて、前向きなプランを議論していきたいなと思います。

特に、これまでの、公共インフラであった道路とかダムとか、水道や何やっていうのから、令和の公共インフラって、僕はデータセンターとクラウドとWi-Fiだと思っているので、令和の公共インフラをどんなふうに整備していくのだというようなことも含めて、本来、行政がやっていくべきことじゃないかなと思いますので、そんなことも議論出来たらいいなと思っています。

二つ目の外郭団体。これは、これまでの、いろんなニュースから、外郭団体イコール天下り、業務がゆるい、成果が見えないから悪って印象がついてしまっていると思うのですが、本来はそうじゃなくて、官と民のハイブリッドで戦略的子会社もしくは戦略的關係会社として、とっていい存在なはずだと私は思っているのです。

ですので、一概に整理すると決めつけしないで、機動的に動ける外郭団体を作っていくとかこういう分野では外郭団体のほうがより機能が発揮出来て、成果が上がるっていうふうな、作るほうも含めて、あるべき姿の外郭団体をどう整備するんだっていうふうな、とらえ方をぜひしたいなと思います。

以上です。

会長

はい、ありがとうございます。
何かコメントありますか。

事務局

ありがとうございます。委員のご指摘の通り、デジタル化の部分であるとか、あと外郭団体の取扱いなんかにつきましても、まさしくそういう形で、何かこう整理統合したりやめてしまったりということよりも、しっかり本来のその外郭団体にしか出来ないようなことに、より集中をしていただくといった視点も非常に大事かなというふうに私も思っていますので、そのあたりも含めてこれからご議論しっかりいただけるようにしていきたいなというふうに考えております。

以上です。

会長

はい、ありがとうございます。
他いかがでしょうか。

委員	<p>先ほどの議題の時に会長がおっしゃっていたこととちょっとかぶるのですが、決算の内訳が、コロナの影響とそうじゃないものが切り分け難いというお話があったと思うのですが、全体として切り分けは難しいというのはいいと思いますが、例えば、市税収入でも、コロナの影響による所得の減で、個人市民税3億減りましたって書かれているのですが、本当にコロナが原因なのか、人口構成が変わってしまったから、コロナが収まっても減るものなのかっていう、分析をきちんとしないと、先ほど5年間で8億足りないよねっていう議論をするにあたって、これ別に川西市さんだけじゃなくて、民間でも言われていますけど、ちょっとコロナのせいにしてしまっているんで、本当に、本来の力が見えなくなっているんで、ここは何かコロナのせいの現象ではなくて、本来、何ていうんですかね、ちょっと川西市の人口構成を追いかけていないからわからないのですが、社会保障費が増え続けるっていうことはそれなりに、高齢者割合が増えているのだと思いますけれど、ちょっとその、コロナだからっていう、大きい括りじゃなくて、分けていかないとその、何を1年間に1億どうやって浮かすかという議論はなかなか難しいのではないかなと思います。それは何か個々には分析されているっていう理解でよろしいのでしょうか。</p>
会長	<p>はい。いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>はい。個々の事業におけるコロナウイルス感染症の影響というのは、各事業課、事業担当、それから税の部門、こういったところで可能な範囲で、分析をしているというふうに考えております。</p> <p>ただ、先ほど申し上げた通り、非常に複雑な要素が絡み合う部分もありますので、全体として、どの程度、コロナがなかったら、財政状況が良かったのか悪かったのかといったところの全体像までは、今の段階ですいません私自身が分析しきっているというわけではないのですが、今後、また、収支の見通しを試算していく中で、可能な限り、そういった要素がどのくらいあるのかなといったところは考えながら進めていきたいなというふうに考えています。</p> <p>以上です。</p>
委員	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>その税収の減だけでなく例えば市の職員の人の残業代がどのくらい増えたかとか、補助金の話でも事業が止まっていたから、補助金が減りましたっていうような部分とかもあったと思いますので、ちょっと丁寧に見積もっていたきたいなと思います。</p> <p>よろしくお願いします。</p>
会長	<p>はい、ありがとうございます。</p>

委員	<p>他いかがでしょうか。</p> <p>いくつかテーマが基本方針等の今後の議論のところ、社会的課題の解決に関して挙げられていると思います。</p> <p>これは世界的な流れで、非常に重要なことで、官と民が、共同で解決していかなければならない、そういった分野になっているかなと思います。</p> <p>そこで、社会的課題と言っても様々な分野があると思います。</p> <p>例えば、特に日本企業、日本が最近すごく力を入れようとしている人権の話であったりとか、或いは環境もそこに含めるっていう話もあるでしょうし、特に、自治体とも関係するコミュニティに関する問題もあるかと思います。</p> <p>この辺 I S O の 26000 で言われているような社会的課題の範囲が一応わかりやすいかなと思うのですが、そういった中で川西市として、どういった社会的課題を、例えば民との協働によって、取り扱っていかうとするのか。</p> <p>そこをもう少し、ただ単に社会的課題というだけではなく、具体的に掘り下げて行って、場合によっては、民と、或いは N P O とかの市民社会組織と会合を持って、具体的に川西市として、民と協働すべきところ、或いは、これまで通り、川西市として、中心として取り組むべきところを切り分けていく、そんな手探りの状態から始めていかないといけないと思います。</p> <p>そんな試みっていうのが非常に大事なかなと思っております。</p> <p>その辺に関して、もう少しブレイクダウンしていくということで社会的課題を、その辺に関しての今後、もし検討されていることがございましたら、教えていただきたいなと思います。</p>
会長	はい、お願いします。
事務局	<p>はい。この官民連携の部分につきましては、直接、我々の部門、部署ではないんですけども政策部門のほうが、官民連携といったところの担当になっておりまして、その中で様々な民間企業の方のほうから提案いただき、その内容を庁内に周知をしてこういった提案をいただいておりますので連携できるものがあれば、声を上げてくださいといったようなマッチングといいますか、そういったような取り組みも今進めておりますし、少し前にはですね、市のほうから行政課題を提示しまして、それについて、民間企業のほうから提案をしていただくと、いったような取り組みも進めております。</p> <p>ただ、いずれにしましても、まだまだ始まったばかりといいますか、これからどんどん進めていくということの中で、新しい発見も、出てくるような分野になるのかなというふうに考えておりますので、今回の議論の中でも、一つのキーワードになってくるのをではないかなというふうに思っておりますので、また皆様からのアイディアでありますとか、こういったことをされているところがあるよとかですね、いろんな情報もいただきながら、考えていきたいなとい</p>

<p>委員</p>	<p>うふうに考えております。以上です。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>今のご説明だったと思いますが、企業さんからの提案等を受けてっていう話 がご説明の中の中心だったと思うのですが、こういった動きに関しましては、 世界的な流れで、日本の中も例えば中小企業であったとしても、そういった流 れにやはり乗っていかないといけないという時流になっていますので、そうい った話として、やはりそういった中小企業さんにとっては、そういった例えば 社会的課題について取上げて、それを解決していこうというところに関して、 なかなかノウハウを持っていないというところも多かったです。</p> <p>ですからただ単に企業さんからの声を待っているというわけではなくって、 逆に川西市として、そういったところに対しても、声をかけていくとか、そう いったところの動きも必要になってくるのではないかなと、その場合は例えば 商工会さんとか、場合によっては、そういった中間支援団体ですねそういった ところとも連携をとりながら進めていく、もっとプッシュしていくというところ も、必要になってくるのではないかなと思います。</p> <p>すいません。以上です。</p>
<p>会長</p>	<p>はい、ありがとうございます。</p>
<p>市長</p>	<p>官民連携について少し補足をさせていただきたいと思います。すでに、いく つかのパターンで実施をしています。</p> <p>一つは神戸市さんなんか今中心になっておりますけども、いわゆるアーバ ンイノベーションジャパンというその取り組みの中でベンチャー企業さんと一 緒に連携していこうと。これは、我々が市内の中で解決したい課題を抽出して、 一緒にやっっていこうと。</p> <p>それを一緒にやってくれるベンチャー企業さんを探して一緒にやっていく と。</p> <p>具体的に形になったものとしてはその空き家の調査をどうしていくのかと か、あと、これはあくまで市内の話ですが保育所の人事管理が非常に大変でし たので、それを一緒にアプリを作ろうとかというこういう一緒にやっっていくパ ターンで、もう一つは、先ほども申し上げた通り、我々のほうが事業者さんに プレゼンをして、こういった課題に対して事業者さんに手を挙げていただけな いでしょうかというケースもございます。</p> <p>これは例えば我々人事についてどういうふうな研修ができるのかということ を、民間の方からご提案をいただいたり、あとはまだあまりちゃんとした形ま では行っていませんが、宿泊するところが川西市にはありませんので、それ をキャンピングトレーラーとかを使ってこれを宿泊場所に変えられないかとか というような、そのチャレンジをしたりもしています。</p>

	<p>あとは三つ目、これはもう純粋に民間の方がパッケージを持ってきて、我々のノウハウはこういうものがあるので一緒にやりましょう、包括連携を結びましょうという、また、この三つが主な官民連携の形かなと思っています。</p> <p>我々が本当にやらなければいけないのは、パッケージをいただいてやるのは、非常に楽で成果としては出やすいのですが、やはり委員がおっしゃっていただいた通り、我々が自分たちの力で解決出来ない課題って何だろうということの掘り起こしというか、そこがこれ総合計画での議論にもなってくると思うのですが、なかなか行政のノウハウ、発想、こういったリソースの中で出来ないものを探していくということを我々の行為として行っていかなければいけないと。</p> <p>これは、行革で出るという数値ではないとは思いますが、行政の仕事の仕方の転換という意味では、この官民連携、いろんな言い方がありますが、協働していくということというのは、非常に重要ですし、それが市内の事業者さんとかNPOの方とか、そういった新たな協働関係みたいなものにもなるのではないかなということは感じています。</p> <p>少し補足をさせていただきました。</p>
会長	<p>はい、よろしいでしょうか。</p> <p>はい、ありがとうございます。それでは委員、お願いします。</p>
委員	<p>先ほどお話をされていた、社会課題の解決のところですが、市長からお話がありました通り、実際に大きな社会課題というよりも、地元で本当に困っていらっしゃるようなことを具体的に解決していくという、いわゆる官民連携をお考えということで、ちょっとほっとしたなというふうに思っております。</p> <p>また、役所の皆さんがやはり社会課題の解決っていうものを、実際に自分の地域の地域の中で、社会課題とは何かという掘り起こしをしていただかないと、NPOも中間支援団体も、大きな話というよりも、地元の川西の中でどういうことの困り事があるのかということが具体的に行政の皆さんから出てこない、解決のしようがないのかなというふうに思っています。</p> <p>もう一つ、この中で、起業家を使っていくというお話がありました。</p> <p>使っていくということですが、川西市の方から、新たな起業家の皆さんを創出していくというようなイメージで、何かをされるということを想定されているのかどうかというのを伺いたいなと思っていました。</p> <p>教えてください。</p>
会長	<p>いかがでしょうか。</p> <p>お願いします。</p>
事務局	<p>総合政策部長の石田でございます。</p>

まず委員のほうからの最初の地域の課題というところです。

我々今、例えば小学校区単位のコミュニティでありますとか自治会こういったところの支援をしているところですが、やはり社会的、地域の課題というのは、この川西のほうのこの高齢化に伴って、なかなか担い手が見つからないという、それと、担い手が見つかったとしても、固定化をされて、負担が増えているという、こういった課題が出ていますので、それに対して我々のほうも、例えば自治会加入の加入促進というようなところも取り組んでいるのですが、なかなか効果が出てないというのが、現状です。

我々一番やっぱり重要なのは、それぞれ地域にいろんな人材、いろんなノウハウを持った方がいらっしゃるので、ここの方々をどうそういう求める団体と人をつなげていくか、いわゆる人材マッチング、ここが一番の課題かというふうに思います。ここの解決については、市民活動センターもそうですし、NPO団体さん、こういったところに入っただきながら、いかに必要としている人材を、まず、地域なりにこういったところに関わっていただくかそこが一番重要なのかなと思っています。

そのためには、先ほどのDXというようなところも、意識の改革も伴うような手法の検討も必要なのかなというふうに考えているところです。それと起業家のほうにつきましては、この産業部門のほうで、今の女性の起業塾というようなことの取り組みも行っています。

それと今回コロナなので、なかなかこう、会社のほうに行けないというような状況も出てきていますので、川西市としては、例えば、もう会社に行けないような状況でも割と我々駅の近くにですね、そういったスペースを確保することによって、会社に行けなくても事業活動ができたり、またサラリーマンの方でも、脱サラではないですけど自分のこういったノウハウを活用できるような今もコワーキングスペースが少し増えつつあります。

そういったスペースの確保と先ほど申し上げたような起業塾なり、こういったところの展開を今、始めているといったところでございます。

会長

越田市長。

市長

はい、すみません補足というか追加で、委員がおっしゃったように社会課題をどうやって見つけるかってこれ本当に私たち自身も悩みながらやっています。

やはりどうしても我々、地域活動をしている方からお話をよくお聞きするということは、もうこれはありますので当然先ほどの担い手が不足するとかそこから見えてきた課題というのを抽出するってことはたくさん出てきます。

ただですね、今回私も総合計画をつくるためにタウンミーティングで14地域を回りましたが、今何かいよいよ出てきたなという一つの解決しなければならぬ社会課題が、学校に行かないいわゆる不登校と言われる方たち、これ

は14地域タウンミーティングをした中でかなりの方が、我が子がとか、うちの孫がみたいな感じでの相談がありました。

今までこうタウンミーティングをすると街づくりについてとてもハッピーな未来をこういうふうにしましょう、こんなに僕たち頑張っているから支援してくださいというのが多かったのですが、非常に苦しい思いをしている、悩んでいるということが、何かこう溢れ出してきたのかなと。

ただここに出てくる課題というのは、まだ見えてきた課題で、見えてこなくなった課題にどう我々がアクセスをしていくのかってということ、そのものが社会課題なのではないかなというふうに思っています。

男女共同参画の観点で言いますとやはり、女性の、このジェンダーギャップによる今本当におひとり暮らし特にシングルの方もコロナで厳しいという状況がありますし、ご自宅にいることによって男性自身も育児に悩んでいる方が、今まで以上に多いというのは支援をされている方からお聞きをしたりします。

また、地域を歩くと、やはり4年ぶりにお会いしたりすると、地域のおじいちゃんおばあちゃんたちが、今までご自宅の中に入ってお茶飲んでよと言われた方がもう家に入れない、入れられないのだと。

なぜならおじいちゃんが認知症になってこんな状況だとか、なかなかこう我々行政の中に拾えていない声を集めていくというその課題を、目の前に委員のお話にも少し戻るのですが、どんな課題があるのかという時に、我々が目の前に見えているのは精一杯対応しているつもりなのですが、見えてない課題とか根の深い課題がすごく多いのではないかとということに、ちょっと問題意識を持っていますので、そこはもちろん行政として寄り添いながら課題を掘り下げていくころと、地域のある種いろんな団体の皆さんの市民力の中でこう引っ張り出していくところ。

そういったところが、少し行政改革の本題と少しずれるのかもしれませんが、そういったところをつくるために、いかに行政として体質をつくるのだということが、一つ大きな次の行革大綱の中で単に数字だけの話ではない、方向性をご示唆いただきたいなというふうに感じております。

会長

はい、ありがとうございます。よろしいでしょうか。

委員

ありがとうございます。

実は、このPDFの中で気になったのが、社会課題という言葉と、地域課題という言葉とをどのようにとらえていくかというのを、この国のほうから何かこう出してきた、いわゆる言葉だというふうに言っていました、どちらかというと、今この川西市の中で考えていけないといけないのは、地域課題いわゆる、地域の中で、お金も人も、課題も、地域の中で、うまく循環して解決していくようなものというのと、先ほど委員がおっしゃった、例えば、環境問題みたいなものとか、大きなものとかちょっと違う次元で話されているみたいな気がし

	<p>て。出来たら、やっぱり地域に寄り添ったお金も人も課題も、地域の中でうまく循環して解決していけるようなものが、行財政改革の大綱の中に、策定されて中に入っていただけたらなというふうに思いました。</p> <p>ありがとうございます。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。 委員お願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>今、委員がおっしゃった最後のところは、とっても大事なところで、私も少し先ほど申し上げたところにも関係するのですが、この社会的課題の川西市としての定義ですよ。</p> <p>それをきっちりやはりどっかでやっておく必要があるのではないかなと。</p> <p>で、先ほど申し上げました、例えばISO26000 の中では、これ社会的課題、企業、企業が行うべき社会的責任の中で、このコミュニティの問題も取上げられていますし、そういった意味をとらえますと、例えば、社会的課題の中にも、地域課題も入っているのだというふうにとらえることもできるということですね。</p> <p>ですから、その辺やはりきちんと定義をしておかないと、川西市としてはこう思っているけどもっていうところで外部にそのように受け取られない可能性もある。</p> <p>そこでやはり議論がちぐはぐになってしまうとかみ合わないという危険性もありますので、やはりあまりにもこう細かく、具体的な話になるのは話を進めてからになるのでしょうかけども、ある程度大枠として、例えば社会的課題というのは、川西市としてどのようなものとしてとらえているのかというところを、例えば地域の話とかですねそういったくくりで結構だと思うので、しっかり定義しておくということがポイントかなと思います。以上です。</p>
<p>会長</p>	<p>はい、ありがとうございます。 まだ少し時間ありますけどいかがでしょうか。 いいですかね。</p> <p>いろいろご議論いただいて、非常に有意義だったと思いますが、やはり、委員が言われたように、まさにこの川西市内の産業なり、企業さんとか事業者さんの活性化をどうやって図っていくかというところは財政にも大きく効いていくので、短期的には難しいかもしれませんが中長期的に、DXをどのように、民間も行政もどのように進めていくのかというところはとても重要な視点だと思います。</p> <p>そういうところも、戦略的に考えていかないといけないということと、あと、これも同じですけど先ほど言われた地域課題とか、社会的課題のところですよ。</p>

事務局	<p>これまさにその地域で、委員は、その地域の中で循環して解決するようなサイクルをどう作るかって言われましたけどまさにその通りだと思いました。</p> <p>そういうことは、行政と民間を分けるような話ではなくて、一つの課題を協働で解決するような仕組みをどう作っていくのかっていうところが、川西市の行財政運営の中で、実現しなければいけない、一つの重要な課題なのかなというような気がいたしました。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>他に何かご意見あるでしょうか。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>それではですね、いろいろ有意義な議論をいただきましてありがとうございます。</p> <p>会議録についてですが、発言の要旨を事務局の方にまとめていただくことといたしまして、各委員の発言については名前を伏せることといたします。また会議録の承認については、会長である私が承認させていただくことにしますけどよろしいでしょうか。</p> <p>ありがとうございます。本日の議事は以上です。</p> <p>一旦事務局にマイクをお返しいたします。ありがとうございました。</p>
	<p>皆様どうもありがとうございました。</p> <p>次回の第2回の開催につきましては、先ほど説明がありました通り、2月頃を予定しております。</p> <p>可能な限り、対面で実施したいと考えております。今後、日程調整等を行わせていただきますので、その際はよろしく願いいたします。</p> <p>それでは、本日の会議はこれで終了とさせていただきます。</p> <p>本日は誠にありがとうございました。</p>